

# 平成 25 年度事業計画

(平成 24 年 12 月 1 日～25 年 11 月 30 日)

平成 24 年 11 月 13 日

公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団

毎日新聞東京社会事業団は公益財団法人への移行とともに事業を四つに分類した。「社会福祉事業」「災害救援事業」「国際協力事業」「小児がん事業」の四つ。

## 社会福祉事業

### 母の日・父の日募金キャンペーン

親の死亡や虐待などで家族と一緒に暮らせない子どもたちを支援するため、毎日新聞生活報道部が5、6月を中心に「母の日・父の日募金キャンペーン」を実施している。当事業団は寄付の受け入れ窓口となり、あしなが育英会をはじめ、遺児を支援する団体への助成を続けており、25年度も継続する。

### ◇主催・共催事業◇

#### 第43回毎日社会福祉顕彰：200万円

社会福祉の向上に貢献した個人や団体をたたえる毎日社会福祉顕彰は平成25年度で43回目を迎える。財政危機の中で迎えた少子・高齢化社会にあって、民間の総意工夫・活力を引き出す同顕彰の役割は、ますます重くなっている。

#### 第57回手足の不自由な子どものキャンプ<夏>：150万円

当事業団と日本肢体不自由児協会、東京YMCAとの共催。障害を持つ小学3年生から高校3年生までの子供たちと、医師・看護師、ボランティアらスタッフの計約150人が参加する。平成25年度で57回目を迎え、8月に5泊6日の日程で山梨県の山中湖畔で開催予定。

#### 第24回雪と遊ぼう 親と子の療育キャンプ<冬>：100万円

日本肢体不自由児協会、NHK厚生文化事業団との共催。24回目となる平成25年も1月に新潟県南魚沼市のスキー場で実施予定。小学生のキャンパー

と保護者、スタッフなど100人余が参加の見込み。

### **第82回全国盲学校弁論大会：20万円**

視覚障害者の自立と社会の理解促進のため、点字毎日、大阪、西部事業団、全国盲学校校長会との共催。82回目を迎える。

### **第46回日本陶芸倶楽部会員チャリティー作品展**

日本陶芸倶楽部、NHK 厚生文化事業団と共催。5月に東京・日本橋の三越本店で会員による、チャリティー作品展を開催。販売収益の半額は当事業団の社会福祉事業に寄付される。

## **◇後援・助成事業◇**

### **歳末助け合い・児童養護施設へのプレゼント：300万円**

児童養護施設で暮らす子どもたちが年末年始を楽しく過ごせるよう、玩具、文具、スポーツ用具を、12月に東日本地域の民間施設235カ所に贈る。

### **歳末助け合い・ホームレス支援：60万円**

東京・山谷地区では路上生活者に住宅をあっせんする市民団体と低廉な弁当を提供する団体に、横浜市ではアルコール依存症患者の救済と生活再建を支える団体に、各20万円を助成する。

### **農山村の地域医療活動に助成：70万円**

慈恵会医科大学、慶応義塾大学医学部、松本歯科大学、東京女子医科大学のサークルは夏休みなどを利用し、農山村の地域医療活動や障害者施設で無料診療、健康相談などの奉仕活動を行う。その活動費の一部を助成する。

### **交通遺児等を支援する会に助成：35万円**

夏休みバスツアー、入学祝い金などを助成し、交通遺児家庭を支援する。

### **東京ヘレン・ケラー協会に助成：312万円**

同協会は1950年にヘレン・ケラー女史の来日を機に毎日新聞社と当事業団が設立した。中途失明者の自立更生と福祉増進のためのヘレン・ケラー学院では、あんま、マッサージ、指圧、はり、灸などの資格修得のための指導・教育を行う。このほか、点字出版物の印刷発行や海外盲人交流事業を実施し、盲人のための点字図書館も運営している。11月に開催するヘレン・ケラー記念音楽コンクールは、音楽を志す視覚障害者の登竜門となっている。

### **「いのちの電話」への助成：20万円**

自殺予防の電話相談事業「東京いのちの電話」は1971年に開設され、年間約3万件の相談を受けている。民間助成に頼るところが大きく、当事業団も助成を続けている。

### **肢体不自由児・者の美術展後援と賞品贈呈：15万円**

日本肢体不自由児協会が主催。障害者への理解促進につなげるため、後援、助成する。

### **「心の輪を広げる障害者理解促進事業(体験作文及び障害者の日のポスター募集)」の後援と賞品贈呈：5万円**

障害者と健常者の相互理解を深めるため内閣府が主催。当事業団はこれを後援し、「障害者週間」の12月上旬、東京で開かれる表彰式で最優秀賞受賞者に副賞を贈呈する。

### **日本車椅子バスケットボール選手権大会への助成：5万円**

毎年5月、東京体育館で開催。

### **声の点字毎日助成：10万円**

全国14カ所の国立療養所で闘病生活を送っているハンセン病患者のために「声の点字毎日」を「点字毎日」が製作、寄贈している。その製作費を、大阪、西部事業団とともに助成。

**わたぼうし音楽祭の後援と助成：10万円**

奈良たんぼぼの会が主催し、障害者の思いをつづった詩に、健常者が曲をつけ、発表することを通じて「共生社会」の推進を目的としている。

**八王子市ボランティアセンターに助成：5万円**

**全日本ろう社会人軟式野球秋季大会の後援と優勝杯レプリカを贈呈**

: 1万8000円

**わらじの会夏合宿助成：3万円**

埼玉県春日部、越谷両市で障害者と地域住民が合宿を通じて親睦を図り、共生社会の重要性を啓もうする活動に助成する。

**関東聾学校野球大会・卓球大会の後援と助成：7万4000円**

関東地区のろう学校生が参加する大会に、優勝カップなどを寄贈する。

**全東京ろう社会人軟式野球TDリーグ大会の後援と賞品贈呈**

東京都内の聴覚障害者の12チームによる野球大会に、賞品を贈呈。

**日本視覚ハンディキャップテニスの後援と助成：3万円**

用具を工夫することにより、視覚障害者と晴眼者の交流を図る事業に助成。

**日本点字図書館のチャリティー映画会の後援・助成：3万6000円**

国、都からの補助金が削減される中、同図書館にとって、映画会は貴重な財源であり、後援、助成している。

**福祉囲碁東京大会の後援と参加賞贈呈：4万円**

首都圏の高齢者や障害者の囲碁愛好家から要請があれば、ボランティア棋士を派遣し、対局を通じて仲間づくりを進めている。年1回の大会に参加賞を贈呈。

## 災害救援事業

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災救援金の受け付けを当面、継続する。毎日新聞社と大阪、西部両社会事業団とともに創設した「毎日希望奨学金」は初年度、震災遺児 156 人、24 年度 190 人に、月額 2 万円給付している。

新年度も、こうした自然災害が発生した場合には、毎日新聞社と協力し、機動的に救援キャンペーンに取り組む。

## 国際協力事業

海外飢餓・難民救援キャンペーンは、1979 年にバングディシュに取材チームを送り、ルポを掲載して募金を呼びかけたのが始まり。

寄付金は、ユニセフ、UNHCR などの国際機関のほか、現地で活動する日本の NGO などを通じて、難民や飢餓に苦しむ人々のために役立てる。今年度、東京社会事業団は南スーダンに取材班を派遣し、2 月に紙面化。また、大阪社会事業団はパキスタンに取材班を派遣し、5 月に紙面化したものの、寄付は思うように集まらず、来年度は経済的にも厳しく、当事業団単独での取材チームの派遣は難しい状況。

全国社会福祉協議会が実施しているアジア諸国の福祉従事者を日本に招く「アジア地域福祉施設従事者研修事業」は次年度も継続する。

## 小児がん征圧事業

毎日新聞社の「小児がん征圧キャンペーン」は1997年から始まり17年目を迎える。当事業団は寄付金の受け入れ機関として最初から関わり、キャンペーンを支えてきた。毎日新聞社もチャリティーコンサートを継続しており、自主的にチャリティーコンサートなどのイベントを開いて募金に協力してくれるアーティストもいる。集まった寄付金は小児がんや難病の子供たちを支える患者団体、支援団体、医療・研究機関に贈呈する。

## 広報活動

### 団報「毎日の福祉」の発行

当事業団の1年間の活動報告やキャンペーンの呼びかけなどを掲載、毎日新聞読者に社会事業団への理解を深めていただくため、毎年5月に発行している。新規寄付者の開拓やリピーターの確保に役立っている。

### 歳末助け合い募金のダイレクトメールの発行

歳末助け合い募金を幅広く呼びかけるため、寄付者にダイレクトメールを郵送している。

### ホームページの作成

「毎日の福祉」の電子版として毎日新聞社のホームページ「毎日JP」内に開設。募金や事業の募集社告、救援金贈呈の報告と、機動的かつ広範囲な広報手段として活用している。24年度以降は、財務諸表や定款も公告している。

以上